こどもの森の利用案内

★ こどもの森は、時間中いつ来ていつ帰っても OK。お金はかかりません。
★ こどもの森にある道具は自由に使えます。使い終わったら片づけてね。
★ おやつやお弁当を食べることもできます。ごみは持って帰ってね。
★ 汚れてもいい服や靴で来てね。着替えもあるといいよ。
★ なくなったら困る大事なものは、おうちにおいてくるか身に着けて遊んでね。

大人のみなさんへ

こどもの森から保護者のみなさんへのお便りです

あそびコラム あそびの「サンマ」が絶滅危機 !?

みなさんは、「サンマ（＝三間）」という言葉、どこかで聞いたことがあるでしょうか？ 「サンマ」とは、子どもが自由にあそぶために必要とされる要素「時間」「空間」「仲間」のこと。現代の子どもはこの「サンマ」が減っていて、昔に比べてあそぶことができなくなったというのです。

子どもたちの放課後は、塾や習い事で忙しく、何をするか自分で決められる時間は少なくなっています（時間）。車が多いから、不審者が心配だから…あそべる場所は限られ、公園には「ボールあそび禁止」「大声禁止」の看板が…（空間）。さらには、みんな忙しく、一緒にあそぶ仲間が少ない、もしくはいない…（仲間）。しかし、こうした環境は、単に子どもたちから遊びを奪うだけではなく、子どもたちの内面にも影響を与えているように思います。

「やってもいいの？」が口癖の子どもたち

「ねえ、あの木って登っていいの？」「このロープ使っていいの？」「あの鬼ごっこ俺も入っていいの？」…子どもたちからよく聞く言葉です。やってみたいという気持ちよりも先に、「許可されているか」が気になってしまう、そんな気持ちの表れでしょうか。子どもたちの様子を見ていると、日々の生活の中で制限があることに慣れ過ぎてしまい、子ども自身の心の中に「大人の視点」が入り込んでしまっているのを感じます。

「子どもらしく」を受け止められるまちに

「やってみたい！」と感じた瞬間には、もうやっている。そんな子どもらしい衝動は、自分を丸ごと受け入れて成長していくために大切なもの。地域のみなさんの子どもたちへの温かいまなざしや、「思いっきりあそんでおいで」と送り出してくれるおうちの方のご理解があるからこそ、こどもの森では「子どもが子どもらしく」を実現することができています。でも、本当はこどもの森の中だけじゃなく、まちじゅうでそんな姿が見られるといいですよね。子どもがありのままの姿で受けとめられるような雰囲気が地域全体に広がるといいな、そう思いながら今日もあそび場で子どもたちを待っています。

あそびエピソード たかが日常あそび。されど日常あそび。

はる

常連である小学５年生の男の子。
ある日、「はるぅうううううううう！！！！！！」と、とても熱のこもった声で、私を呼び止める。
見ると、そこには達成感と幸福感に満ち満ちた彼の姿が。内から湧き出る自信のきらめきオーラを放ちながら彼が手にしていたものは、ツヤツヤに光る泥だんごだった。

「すごいじゃぁあああああん！！！」と同じテンションで言葉を返すと、彼は「おれ、ここまで光らせたの初めて！こうやって、磨くと〜、ほら。もっと光った！すげー。時間かかったんだー。」と誇らしげに、初めての光る泥だんごを見せてくれた。

私も嬉しくなって一緒に喜んでいると、さらに、彼から思いもよらない言葉があった。

「はる、いつもこんなの作ってたんだね！ すげぇ！！ 今まで『割っていい？』とか言ってほんとごめん。子どもたちに壊される時もあったりしてさー。よく泣かなかったよね！ 禅の心を持ってんの？」
私「？！！」

そう、私は泥だんごを作るのが大好きである。せっせと磨いている。そして、その泥だんごを目にした子どもから言われる言葉はたいてい「すげぇ！割っていい？」。もちろんそこで、えいや！と割られることはないが、やり取りの間に割れてしまうこともあった。

そんな日常のやり取りを、彼が泥だんごを自ら作ることで思い出し、さらに相手を理解して思いやるにまで至るなんて！嬉しいオドロキ。

彼は、自分のあそびの幅を広げ、今までは感じなかった楽しさを発見し、更に新たな自信をつけた。
彼は、日常の細かな出来事を自分でも気づかないうちに実体験を通してつなげ、心の変化を言葉によって表した。

こんな出来事が「ただあそんでいる」なかで起こる。素晴らしきかな、日常のあそび。